



日高ロータリークラブ WEEKLY

2023-2024 R.I テーマ
世界に希望を生み出そう

THE ROTARY CLUB OF HIDAKA

例会日	毎週火曜日	時間	第1・3週 18:00~19:00	第2・4週 12:30~13:30
例会場所	日高市商工会	住所	〒350-1206 日高市南平沢 1083 日高市商工会館内	
事務所	同上	TEL. FAX	042 (985) 3355	
会長	清水佳代子	幹事	和田貴弘	会報委員長 上野宗久

第1857回例会 2023年10月3日(火)

2023年10月24日発行 第1669号

会長の時間 清水佳代子会長

10月に入り、やっと秋らしくなってきました。吹きつける風も涼しくなってきました、ほっと一息といった所です。新年度が始まり3ヶ月が経ちましたが、本日はRI会長の掲げたテーマロゴについてお話させていただきます。今年度、ゴードン・マッキナリーRI会長の掲げたテーマは『世界に希望を生み出そう』という言葉です。このテーマの発表と同時に、テーマロゴも公表されました。ロゴの意味について、マッキナリー会長はこう説明されております。「2004年スマトラ島沖地震による津波で破壊されたタイの村を、2006年に訪れました。その村では、ロータリーの会員が家屋や集会所、保育所、医療施設の再建にあたっていました。村に到着した私のところに、憔悴した一人の女性が近寄ってきて美しい貝殻のネックレスをプレゼントしてくれました。その貝殻は、女性が30年以上持ち続けていたもので、数少ない所持品の1つであるとのことでした。家族、家、生計手段を失っただけでなく、生きる希望と理由も見失っていたその女性は、村の復興のためにロータリアンが一生懸命活動する姿を見て『希望の光』が見えたと言います。



その感謝のしるしとして、貝殻のネックレスを受け取ってほしいと言ってきたのです。」ロゴには、私たちを取り巻く世界の色が使われているようです。ロゴを思い描く際のインスピレーションは、マッキナリー会長の母国スコットランドの画家で、鮮やかな色使いで知られる『ジョン・ロウリー・モリソン氏』の絵であったそうです。世界に存在する様々な色、そしてタイの女性から貰った貝殻がインスピレーションとなっているこのロゴは『世界に希望を生み出そう』とする、会長のビジョンを象徴しており、また動きのあるダイナミックな図形は、積極的に活動する約140万人のロータリアンを現しているということです。



CREATE HOPE
in the WORLD



幹事報告 町田秀雄副幹事

理事会報告(承認事項)

- ・市民まつり出店について 11月11日・12日
- ・ひだか花火大会 協賛広告について
パンフレット及び芳名看板

地区事務所より

- ・10月ロータリーレートのお知らせ 1\$ = 149円

結婚誕生祝

松井幸司親睦委員



[誕生日]

- 関口誠一さん
- 引間 豊さん
- 引間 豊夫人 月美様
- 長谷川 悟夫人 美幸様
- 町田秀雄夫人 奈保子様
- 羽吹義明夫人 節子様



[結婚記念日]

- 武藤和雄さん 町田秀雄さん 上野宗久さん

『認知症サポーター養成講座』

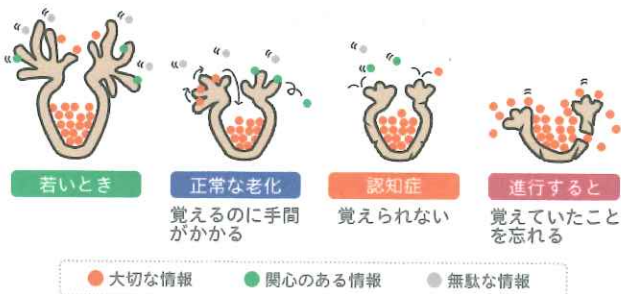
～日高市の高齢化問題～

最初に、日高市における高齢化問題のお話しをさせていただきます。現在、日高市の人口は約5万4千人。その中で、この人口に対しての平均年齢が50.1歳という事で、とうとう50歳を超えてしまいました。そして、高齢者世帯(単身世帯・独居世帯)は12%。高齢化率はどれくらいあるのかな?ということですが…年頭に、日高市長よりこのお話がございましたが、実はそこからまた上がりまして、現在34%。この数字は、埼玉県の中でも結構高いクラス(トップクラス)に入っております。そして、人口の増減率というものがございまして、こちらの方がなんとマイナス4%!年々4%ずつぐらい人口が減少しているというデータが出ております。その人数の中で、生産人口と言いますか…働くことができる人口につきましては55.8%。現時点に於いては、50%は超えております。そのうちの年少者、小さいお子さんや小学生、主に学生さんになりますが、こちらの方は今ところ10.5%。少しお話が前後しますが、現在の総人口5万4000人が、推測なのですが2045年には4万2217名に減少してしまうのではないかとというデータが出ております。それと同時に生産人口の割合が現在は55.8%とお話しさせていただきましたが、こちらの方も51%と減少してしまうような見込み数値が出ております。ところが、高齢化率なのですが、先ほど34%とお話させて頂きましたが、こちらの方はなんと2040年…今からだいたい16～7年後にはなりますが、まだ皆様は100歳にはなられていないと思うので(笑)人生100年時代と言われております。皆様がまだ御存命のうちに高齢化率の方が、なんと44.4%という数字が出ております。日高市の半分近い人口が、高齢化してしまうということでもあります。



～DVD鑑賞～

DVDを鑑賞することにより、なんとなく『認知症サポーター』の役割は御理解頂けたかと思えます。認知症サポーターが増えれば、認知症に対する正しい知識を持った人が地域にたくさん増えることになり、地域ぐるみで助け合うことが可能になります。認知症の方に対しては、「地域単位で支援していくことが大切」と言われております。特別に難しいことをしなければならぬわけではなく、自分ができる範囲で見守ったり、ちょっとしたお手伝いをするのが、認知症の患者さん、その御家族を支える社会を作るのだと思えます。少しですが、DVDの補足説明をさせていただきます。認知症には、脳血管障害(脳からくる血管障害)と、人為的な問題(性格、身体的な問題)からくるものがございまして。皆様も御存知かと思えますが『アルツハイマー型認知症』(脳の神経細胞が通常よりも早く減ってしまうことで認知機能が徐々に低下していく病気)は、近年では若年層にも広まって来ておまして、全く他人事ではありません…。最後に『中核症状』について簡単に説明させていただきます。判断力障害や失語、記憶障害など、脳の一部分の損傷をきっかけに、脳の機能が低下することで直接的に現れる症状のことです。中核症状には、記憶障害や見当識障害、実行機能障害などが含まれます。中核症状が起きると、自分の身の周りで起こっている現実を正しく認識できなくなってしまいます。人間には、目や耳が捕らえたたくさんの情報の中から、関心のあるものを一時的に捕らえておく器官(海馬、仮にイソギンチャクと呼ぶ)と、重要な情報を頭の中に長期に保存する『記憶の壺』が脳の中にあると考えてください。いったん『記憶の壺』に入れば、普段は思い出さなくても、必要なときに必要な情報を取り出すことができます。しかし、年をとるとイソギンチャクの力が衰え、一度にたくさんの情報を捕まえておくことができなくなり、捕まえても、『壺』に移すのに手間取るようになります。『壺』の中から必要な情報を探し出すことも、ときどき失敗します。年をとってもの覚えが悪くなったり、ど忘れが増えるのはこのためです。それでもイソギンチャクの足はそれなりに機能しているので、二度三度と繰り返しているうち、大事な情報は『壺』に納まります。ところが、認知症になると、イソギンチャクの足が病的に衰えてしまうため『壺』に納めることができなくなってしまいます。新しいことを記憶できずに、さきほど聞いたことさえ思い出せないのです。さらに、病気が進行すれば、『壺』が溶け始め、覚えていたはずの記憶も失われていきます。健康な人の心情がさまざまであると同じように認知症の人の心情もさまざまです。周囲の人は、本人の言動を訂正しがちになりますが、それをすればするほど、本人の不安は高まり、逆効果となるでしょう。周囲の人が本人に合わせる必要があるというのは、こういう理由です。まずは、本人の言動を笑顔でいったん受け止めて、安心していただくことが対応の第一歩となるのではないのでしょうか。



健康な人の心情がさまざまであると同じように認知症の人の心情もさまざまです。周囲の人は、本人の言動を訂正しがちになりますが、それをすればするほど、本人の不安は高まり、逆効果となるでしょう。周囲の人が本人に合わせる必要があるというのは、こういう理由です。まずは、本人の言動を笑顔でいったん受け止めて、安心していただくことが対応の第一歩となるのではないのでしょうか。

出席報告	10月3日	会員数	出席数	出席免除	欠席数	出席率	9/12修正率
	夜間	20	13	2	7	66.5%	61.1%

ニコニコボックス報告 13名 合計金額 14,000円 累計金額 92,000円